

## 序 説

「絶対苦手分野にしない 間質性肺炎・びまん性肺炎の画像診断」というテーマで、肺の炎症性病変を中心とした鑑別にまつわる論点について、エキスパートの先生方に解説していただいた。

間質性肺炎・びまん性肺炎の鑑別は、単独で診断の決め手となる所見が少なく、複数の比較的特異性の低い所見の組み合わせから診断することが必要となるため、どのように学んでいけばよいかわかりにくい領域かと思われる。そのため、呼吸器の画像診断のなかで、苦手意識をもっている放射線科医が比較的多いのではないかと感じている。

今回の特集は、主に呼吸器画像診断を専門にしない放射線診断医を対象に、びまん性肺病変全体に通じる考え方を示すとともに、びまん性肺炎の各カテゴリーでよくみられる病態をカバーすることを目指した。幸い、各分野に造詣の深い先生方にご執筆いただくことができ、充実した特集になったと考えている。

本特集の最初の項目で、びまん性の肺病変鑑別の最初の一步をどう考えたらよいか、びまん性肺疾患のどのカテゴリーを中心に考えたらよいか、原則とその適応方法について編者が解説した。併せて、びまん性すりガラス状陰影を呈する疾患について鑑別診断のポイントを示した。次の3つの項目では肺線維症が疑われる症例について、特発性間質性肺炎と、特発性と鑑別が重要な2つの病態である膠原病、過敏性肺炎について取り上げた。近畿中央呼吸器センターの澄川裕充先生に特発性間質性肺炎の最新の考え方につき、特発性肺線維症を中心に国際ガイドラインに沿ってご解説いただいた。また、東北大学病院の富永循哉先生に膠原病にみられる間質性肺炎を、各膠原病に特徴的なパターンを中心にご解説いただいた。天理よろづ相談所病院の鈴木瑞恵先生らには過敏性肺炎診断について、2020年の国際ガイドラインに従い診断のプロセスを実際の症例に即して示していただいた。次の3つの項目では、間質性肺炎以外のびまん性肺炎として鑑別が問題となる病態について取り上げた。まず、愛媛大学医学部附属病院の井手香奈先生に薬剤性肺障害・アレルギー性肺疾患についてご解説をいただいた。次に、奈良県立医科大学の山田 彩先生らにびまん性肺疾患を呈する血管炎、リンパ増殖性疾患および肉芽腫性疾患についてご解説をいただいた。また、山口大学大学院医学系研究科の國弘佳枝先生らにびまん性肺炎を呈する感染症について、鑑別の対象となる非感染性病変との対比を含めてご解説をいただいた。最後の項目では鑑別診断が多岐にわたる器質化肺炎パターンを呈する病態について、佐賀大学医学部の江頭玲子先生らに最新の概念をご解説いただくとともに、器質化肺炎と似た画像所見を呈し、臨床の現場で鑑別が必要な疾患と、鑑別の注意点をまとめていただいた。

すべての炎症性疾患を網羅されてはいないが、本特集でびまん性肺疾患の診断をするうえで核となる疾患をカバーすることができたと考えている。この特集には典型的な画像が多く提示されているので、その画像を目に焼き付けていただくとともに、解説文から診断に必要な考え方を学んでいただければと考えている。ご多忙のところ本特集のご執筆をいただきました先生方に、心より感謝を申し上げます。この特集が読者の先生方の日常臨床に役立つとともに、苦手意識克服の助けとなれば幸いです。

久保 武